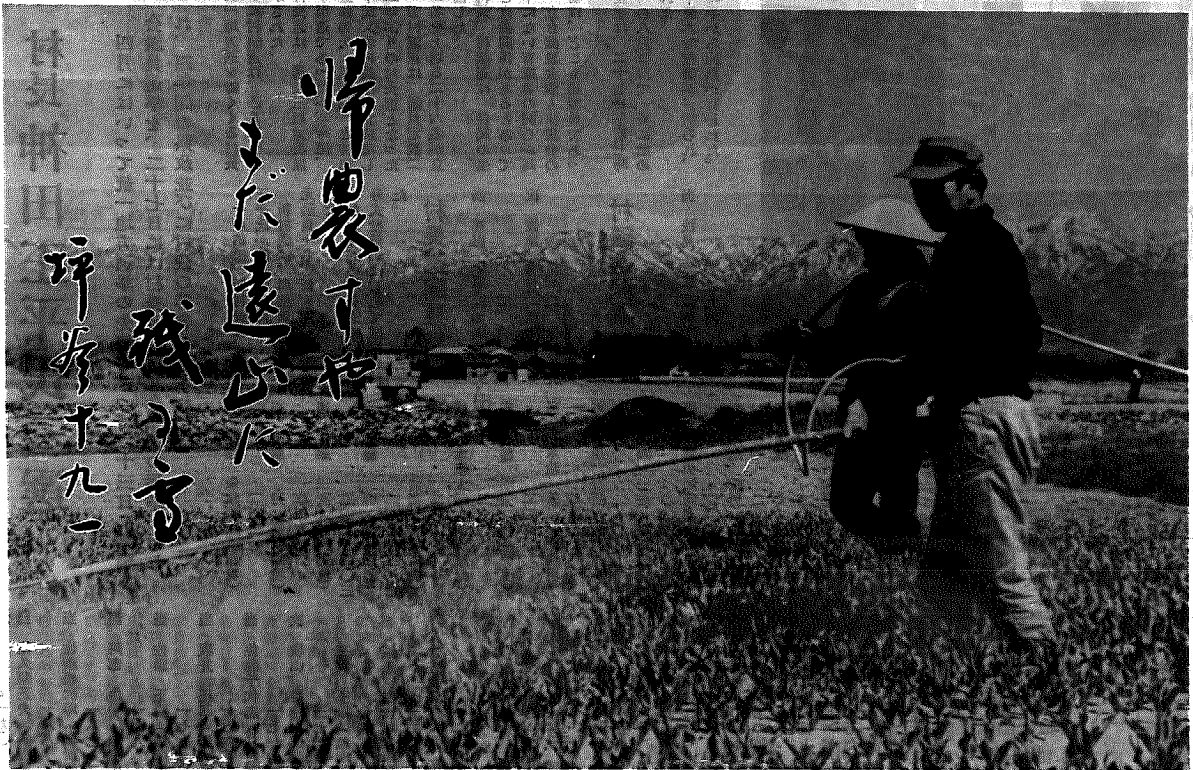


＝ おもな内容 ＝

1. 子どもを水から守ろう (P. 1)
2. 県政・村政の審判くだる (P. 2)
3. 戸籍と墓銘(下) (P. 2)
4. 村の50年度予算成立 (P. 3)
5. 新田子ども会合宿研修 (P. 4)
6. 社会教育委員ら決る (P. 4)

働く、シリーズ ④



帰農すや
まだ遠くは
残るや
坪十九一

焼山チニールップ栽培地帯

原因別水死事故

危険な所で水泳	3
水泳の未熟	10
水泳中の疲労	8
その他	7
小計	28
保護者の不注意	27
一人遊び、子ども同士で危険な所で遊んでいた	29
水遊びで転落	7
乗物によって転落	4
作業中に転落	9
飲酒めいて転落	14
おぼれた者を助けようとして	1
その他	29
小計	120
合計	148

地域ぐるみで

子どもを水から守ろう

水の季節がやってきました。この時期になると、子どもの水死事故が絶えません。新潟県は、農業県という特殊事情から河川や用水路が多岐にわたるため、水死事故は、北陸道の一八七名に次いで全国二番目の一四八名が尊い生命をたっています。特に、六才未満の幼児の水死事故が三分の一を占め、保護者又は、付添っていた大人が注意を欠いていたため、一人又は、子ども同士で危険な水辺で遊んでいたため29人です。

と水によって幼い生命がたたくことが特色です。大園秀吉は「私は子どものときからなんでもやってみなはなかつた」と述懐されたそうです。幼児があふないと思ながらもまさかという考えが、ついに子守りをおろそかにする傾向が強いです。特に、「子どもを水から守るため」、地域ぐるみで危険箇所を調査、子どもに対して、直接注意をうながしたいものです。



風流る五月葉がもたすがすがしい季節となりました。青い空に泳ぐ魚のほりの姿も多く見られます。この下にはすこやかな男の子が育っていることでしょう。端午の節句も近づいて両端はじめることと感じます。

端午の節句は五節句の一つであり、端ははじめの意味が五月のはじめの午の日をさす。普通五月五日をいう。中国では古来五月は悪い日とされ、その日は特に恐んで、山野に荒草をかり邪気を除く行家がおこなわれ、モギで人形をつくって門口にかけけられるはらった。この風習が奈良時代にわが國に伝って、農家は五月は田植え月、田の神の奉仕者であるを子は田植えをはじめるに当り、前後は男子を外に出し、新に風習をさして精進者の夜を過す風習があった。鎌倉時代になると新に菖蒲をさし、菖蒲湯にはいり、菖蒲酒を飲む習慣もまじり、おぼれた子に七才以下の男子のある家では、吹き流し、鯉幟を立て、男子誕生後のはじめの節句は初節句と呼んで重んじ、端、かぶと、鯉人形などを贈って祝うなど、もっぱら男子節句となつたといふこととあります。

人間はど一人前になるまでに長い年月がかかるものなありますが、赤ん坊から成人まで二〇年間の長い教育が大きな形を及ぼすことはいふまでもありません。これまでは教育という字だけだけが響くものという考えが多くありましたが、これからは、少子時代の性格形成の重要性、青年時代の社会性の開発、青年の専門的教養と進路活動による自主的行動の養成など学校だけでやり得ない重要な場面が多くなることが認識されてきました。家庭、学校、社会教育が連携して進んでいかねばなりません。

農家の教育を体面を整え、子どもたちが能く成長できるように努めていきたいと思います。

